

國學院大學学術情報リポジトリ

ビジネス文書における格助詞性複合辞：
ビジネス文書文例集を調査資料として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-04-19 キーワード (Ja): 格助詞性複合辞, 普通形, 丁寧形, ビジネス文書, 社内・社外・社交 キーワード (En): 作成者: 丁, 文静 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000309

ビジネス文書における格助詞性複合辞 －ビジネス文書文例集を調査資料として－

丁 文 静

論文要旨

格助詞性複合辞^{かくじょし せいふくごうじ}の普通形^{ふつうけい}と丁寧形^{ていねいけい}双方が出現するデータは、講演のような改まった場面の話し言葉に多く現れる。一方、書き言葉データは常体または敬体で統一されている。そのうち、敬体の書き言葉データにおける格助詞性複合辞の普通形と丁寧形の実態を考察するために5冊のビジネス文書文例集を対象に普通形と丁寧形に焦点を当てた。ビジネス文書^{ぶしんしょ}を社内^{しゃない}・社外^{しゃがい}・社交^{しゃこう}の3分類に分け、それぞれの使用傾向を分析した。その結果、格助詞性複合辞の普通形は延べ2662語、丁寧形は延べ639語あり、普通形と丁寧形は、表現によって使用頻度が異なる。また、格助詞性複合辞普通形と丁寧形の5形式（計10表現）1189例を分析対象とし、普通形と丁寧形の係先の位置の比較を行った結果、先行研究における講演のデータほどの差はないということが明らかになった。さらに「に際して」の普通形と丁寧形の用例分析を行ったところ、社外文書と社交文書では丁寧形が多く使われ、社内文書では普通形がより使われるという結果が得られた。

キーワード：格助詞性複合辞^{かくじょし せいふくごうじ}、普通形^{ふつうけい}、丁寧形^{ていねいけい}、ビジネス文書^{ぶしんしょ}、社内^{しゃない}・社外^{しゃがい}・社交^{しゃこう}

1. はじめに

ビジネス日本語を対象にするさまざまな研究が盛んにおこなわれてきたが、ビジネス文書に出現する格助詞性複合辞の使用状況、用法、また、話し言葉との比較などを対象とした研究はみられない。ビジネス文書は、要件を確実に伝えることを目的とし、文書の規範性、表現の簡略性、言葉遣いの洗練さが求められる。そのため通常の文書とは違いがある。それらを使いこなすのは、日本語学習者のみだけではなく、日本語母語話者にとっても容易ではない。さらに、日本語教育の観点から、ビジネス文書に関する指導を行う際、相応しい格助詞性複合辞と表現の選択の指導はあまり行われていないという現状もある。

2. 先行研究

2.1 複合辞の認定基準と分類について

複合辞の認定基準と分類に関する先行研究は、主なものとして、森田・松木（1989）、松木（1990）を挙げることができる。

複合辞の定義について、森田・松木（1989）は、「いくつかの語が複合して、ひとまとまりの形で辞的な機能を果たすものを『複合辞』」と述べている。

また、複合辞の認定基準について、松木（1990）は「意味機能」と「形態」の観点から複合辞の分類を行っている。松木（1990）は、意味機能の観点から、複合辞を助詞性複合辞と助動詞性複合辞に分類している。「助詞性複合辞は、形式全体で一つの助詞と同様の働きをするもの、助動詞性複合辞は、形式全体で一つの助動詞と同様の働きをするもの」と定義し、「下位分類は従来の助詞・助動詞分類にほぼ基づいている」と述べている。

さらに、松木（1990）は形態の観点から、複合辞を以下のような3種類に分類している。

- I. 本来「辞」である助詞・助動詞のみが2語以上複合してできた複合辞。（「からには」「だけに」「ては」など）
- II. 本来（詞）である名詞のうち、実質的意味が薄れた形式名詞を中心にして複合した複合辞。（「ものだから」「ところで」「ことだ」など）
- III. 本来（詞）である動詞・形容詞・形容動詞といった用言のうち実質的意味が薄れている形式用言を中心にして複合した複合辞。（「なければならない」「によって」「てもいい」など）

森田・松木（1989）と松木（1990）は、意味機能により複合辞を助詞性複合辞と助動詞性複合辞に分類している。助詞性複合辞はさらに係助詞性複合辞、格助詞性複合辞、副助詞性複合辞などに分類している。また、格助詞性複合辞をさらに分類した下位分類について、以下【表1】に示したように、AからIまで9種類にまとめている。本稿では前述した先行研究を参考にし、【表1】に示した格助詞性複合辞44種類¹（異なり数）を調査対象とし、考察を行った。

1 格助詞性複合辞は、歴史的・位相的・方言的に膨大な数があるが、本稿では「からすりゃあ」「からいやあ」など話し言葉的な要素を含む格助詞性複合辞については考察対象外とした。

【表1】意味機能による格助詞性複合辞

(森田・松木 (1989)・松木 (1990) による)

格助詞性複合辞	A	資格・立場・状態・視点	として、をもって、でもって、にとつて、からすると、からすれば、からして、からいうと、からいえば、からいって、からみると、からみれば、からみて、からみたら
	B	対象・関連	について、につき、に関して、に対し (て ²)、をめぐって、にかけて (は・も)、にかけると、にかけても、につけ (て)
	C	仕手・仲介・手段・根拠・原因	によって、により、によると、によれば、をもって、でもって、を通して、を通じて、にして、につき
	D	時・場所・状況	において、にあつて、にあたつて、に際し (て)、(の) 折に、(の) 折から、につけ (て)、にして
	E	起点・終点・範囲	からして、をはじめ、に至るまで、にかけて、を通じて、にわたつて
	F	基準・境界	をもって、でもって
	G	対応	によって (は)、により、によつたら、によると、によらず
	H	割合	について、につき、に対して
	I	同格	との、という、といった、ところの

複合助詞の認定基準と分類に関する先行研究は、砂川 (1987) が挙げられる。

複合助詞の定義について、砂川 (1987) は、「複数の語が結び合わさって、全体として1語の助詞に準ずる機能を果たすようになった連語のこと」としている。また、複合助詞を語構成から、さらに二つのグループに分けている。

- ① 動詞や名詞など、実質的意味を持つ語が、その実質的意味を失い、形態的に固定化して助詞と同じような機能を果たすようになったもの。
- ② 複数の助詞が結合して1語の助詞相当になったもの。

2.2 他の資料における格助詞性複合辞の出現状況

ビジネス文書に使用される格助詞性複合辞の特徴を述べる前提として、ビジネス文書以外の資料における格助詞性複合辞の出現状況を計量的に考察している先行研究を以下のようにとまとめた。

話し言葉における複合格助詞に注目した研究には、服部 (2013)、本多 (2017) が挙げられる。服部 (2013) は、『国会会議録』と『日本語話し言葉コーパス』のデータに基づき、複合格助詞関連形式での丁寧形／普通形の対応関係に着目し、レジスターの違いや通時的な観点から比較し、連用形式や連体形式など、複合格助詞の丁寧形の取り得る形式の多様

2 () は、() 内の要素を付加しなくても可能なことを示す。

さについて概観している。また、菅谷他（2016）では、ニツイテ、ニヨッテ、ニタイシテ、ニカンシテ、ニオイテ、ニトツテの6つの複合辞についてコーパス間の比較・分析を行った。ゼミでは議論の内容を明確に設定することが求められること、複合辞を用いることによって多義的な単音節の格助詞よりも文脈上の他の語句との関係を明確に示すことができるという機能があるため、ゼミのようなセミフォーマル且つアカデミックな言語使用場面では、名大コーパスのようなカジュアルな会話とは異なり、複合辞が多く用いられていることを明らかにしている。

コーパスなどにおける複合格助詞の丁寧形の出現頻度が示されており、ゼミでの発話などセミフォーマルな場面において丁寧形が用いられていることがわかる。本多（2017）は、『日本語話し言葉コーパス』を用い、複合格助詞における丁寧形の機能について、丁寧形と普通形の比較を通して分析を行っている。

書き言葉における複合格助詞に注目した研究に、BCCWJの教科書データにおける複合辞の使用状況を調査した渡辺（2016）、日本語アカデミック・ライティングにおける格助詞性複合辞の使用実態に注目した菅谷他（2016）、安（2018）、丁（2022）が挙げられる。

以下の【表2】に、教科書、論文においてそれぞれ使用されている複合辞の使用頻度上位10語を示す。

【表2】先行研究における分野別複合辞の使用高頻度上位10語

先行研究	渡辺（2016） ³		菅谷他（2016） ⁴	安（2018） ⁵		丁（2022） ⁶
	小学生教科書（BCCWJ）	中高教科書（BCCWJ）	中級の日本語読解教材	言語学分野論文	文学分野論文	日本語教育・日本語学分野論文
1	について	によって	として	として	として	として
2	という	として	によって	について	によって	という
3	として	という	について	において	において	について
4	によって	について	に対して	によって	について	との
5	ために	による	にとって	に対し	に対し	において
6	だけでなく	ために	のために	に関し	によれば	によって（は）
7	にとって	により	において	によれば	とともに	に対し（て）
8	ための	において	といっしょに	により	にとって	により
9	ものの	に対して	に関して	にとって	を通して	といった
10	に対して	における	とともに	間に	間に	にとって

3 渡辺（2016）では、BCCWJにおけるレジスターが「特定目的・教科書」のデータにある国語・算数（数学）・理科・社会の4科目を対象としている。

4 菅谷他（2016）は「理工学系話し言葉コーパス」と「名大会話コーパス」も調査しているが、【表2】では書き言葉における複合辞の使用頻度上位10語を挙げるため、会話における調査内容を省略する。

2.3 ビジネス文書を分析対象とした先行研究について

これまでの先行研究では、諸星（2021）が、ビジネス文書文例集を利用し、テシマウの過去形の丁寧体テシマイマシタについて考察しており、「ビジネス文書における複合辞には、ビジネス文書に特徴的な形式がある一方で、文書の内容によって偶発的に使用される複合辞も見られる」と述べている。

また、ビジネス文書を言語資料として、その語法の傾向を考察したものに、接続詞を扱った加藤（2018）、副詞を扱った加藤（2019）、呉（2019）などが挙げられる。

3. 調査の概要

3.1 調査対象の選定

ビジネス文書には、大きく分けて二つの種類がある。一つは会社の外に向けて出す社外文書で、もう一つは会社の内部に向けて出す社内文書である。社内文書は社内の人へ伝達や報告を行うために用いられるもので、通知書、報告書、始末書、提案書、議事録、稟議書などがある。一方の社外文書は、取引先や顧客といった社外の人への挨拶や報告のために用いられるもので、業務文書と社交文書に分類できる。業務文書には照会状、通知状、詫び状、督促状などがあり、社交文書には招待状、案内状、祝賀状などがある。この業務文書を社外文書として3分類とする分け方もある。

本稿で調査した5冊のビジネス文書文例集は、全て社内文書、社外文書、社交文書に分けられているため、本稿は、以下の5冊のビジネス文書文例集に従って、ビジネス文書を社内文書、社外文書、社交文書に三分類した。

以下のように、現在発行されている電子テキスト化されているビジネス文書の文例集5冊を資料とした。李ほか（2012）では、「電子テキストを利用する利点は語彙や文法項目の出現状況が網羅的に分析できること、手作業による分析に比べて確認・抽出作業に漏れが少ないことである」と述べている。そのため、本稿では全て手作業で格助詞性複合辞を抽出する方法を用いず、考察対象の学術論文を電子テキスト化し、電子テキストで前処理を行った上で、格助詞性複合辞のデータを抽出した⁷。

抽出には、テキストエディタ「mi⁸」の Grep 機能を使用した。手順としては、【表1】

5 安（2018）では、『国語学』51巻1-3号と『日本近代文学』88-89巻を調査している。

6 丁（2022）では、『日本語教育』172-175号、『日本語の研究』15巻1号-16巻2号を調査している。

7 正確に電子化できているかどうか筆者自身で確認した後分析を行った。

8 Mi（えむあい）は macOS 用のテキストエディタ。1996年頃に「ミミカキエディット」としてリリースし、現在は「mi」と改称してバージョンアップを続けている。コーディングや、Web ページ作成、原稿書き、レビュー、ログ解析などの作業を支援するテキストエディタ。

にある44種すべてを文字列にて検索し、抽出した用例について、松木（1989）の「格助詞」相当の格助詞性複合辞に該当するかを、文脈を確認しながら、手作業で判断した。

- A) 志田唯史（2003）『最新決定版！CD-ROM 付きビジネス文書基本文例230』オーエス出版
- B) 山瀬弘（2004）『必要な文書がすぐに見つかる CD-ROM 付きビジネス文書文例集』池田書店 4
- C) 日本実業出版社編・石崎稔著（2007）『最新版会社文書・文例全書800文例 CD-ROM 付』日本実業出版社 5
- D) 岡田哲・諸星美智直監修、横須賀てるひさ・藤井里美著（2008）『そのまま使えるビジネス文書文例集』かんき出版
- E) 田辺麻紀・長峰洋子（2003）『そのまま使えるビジネス文書 458文例 in CD-ROM』こう書房

3.2 研究目的と課題

本稿では、ビジネス文書に用いられる格助詞性複合辞に焦点を当て、収集したデータを計量的に考察し、格助詞性複合辞の使用実態について解明することを目的とした。そこで、本稿では、以下の研究課題を設定した。

課題1：5冊のビジネス文書文例集を調査資料として、格助詞性複合辞の普通形と丁寧形それぞれの出現頻度を明らかにすること。

課題2：5冊のビジネス文書文例集に出現している格助詞性複合辞の普通形と丁寧形の係先の位置を調査する。

課題1から、ビジネス文書において頻繁に使われ、上位に出現する格助詞性複合辞を明らかにすることを目的とする。課題2から、格助詞性複合辞において普通形と丁寧形の係先位置の傾向を明らかにした上で、話し言葉における格助詞性複合辞普通形と丁寧形の係先の位置と比較する。

4. 調査結果と考察

4.1 ビジネス文書における格助詞性複合辞普通形の使用状況

【表3】 ビジネス文書における格助詞性複合辞普通形の述べ語数と対比值

調査対象	検索総文字数	格助詞性複合辞普通形 延べ語数	対比值
社内	109307	605	0.55
社外	330013	1407	0.43
社交	170469	650	0.38
計	609789	2662	0.44

【表3】に示したとおり、格助詞性複合辞の延べ語数と総文字数の対比值は、社内文書が0.55、社外文書は0.43、社交文書は0.38、全体的な対比值は0.44となる。いわゆる社内文書における格助詞性複合辞普通形の使用頻度は最も高く、社交文書における格助詞性複合辞普通形の使用頻度は最も低い。また、社外文書における格助詞性複合辞普通形の使用頻度は、ビジネス文書における格助詞性複合辞全体の使用頻度に最も近い。

以下【表4】では、ビジネス文書に多く出現している上位10位の格助詞性複合辞普通形、また出現頻度と割合を示す。

【表4】 ビジネス文書における格助詞性複合辞普通形上位10位の出現頻度（N = 2662）

	格助詞性複合辞	社内		社外		社交		計	
		頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合		
1	について	184	30.41	523	37.17	23	3.54	730	27.42
2	との	76	12.56	221	15.71	114	17.54	411	15.44
3	をもって	49	8.10	104	7.39	214	32.92	367	13.79
4	として	77	12.73	158	11.23	85	13.08	320	12.02
5	により	90	14.88	106	7.53	67	10.31	263	9.88
6	という	11	1.82	63	4.48	16	2.46	90	3.38
7	において	26	4.30	31	2.20	29	4.46	86	3.23
8	につき	29	4.79	53	3.77	4	0.62	86	3.23
9	に対し（て）	15	2.48	33	2.35	8	1.23	56	2.10
10	によって	17	2.81	15	1.07	5	0.77	37	1.39
	計	574	94.88	1307	92.89	565	86.92	2446	91.89
	異なり語数	19		31		24			

ビジネス文書に出現した格助詞性複合辞普通形の延べ出現頻度は、社内文書は605、社

外文書は1407、社交文書は650である。また、ビジネス文書に出現した格助詞性複合辞普通形の異なり語数は、社内文書は19語、社外文書は31語、社交文書は24語である。

頻度 ≥ 10 の格助詞性複合辞普通形に注目すると、社内文書は「について」>「により」>「として」>「との」、社外文書は「について」>「との」>「として」。社交文書は「をもって」>「との」>「として」>「により」という順となる。出現率が最も高い格助詞性複合辞普通形は、社交文書は社内と社外文書の対象の内容や事柄を表す「について」と違い、範囲や限界を表す「をもって」が最も高い。ただし、社交文書における「について」の出現頻率は3.54と比較的少ない。それに対し、社内と社外文書における「をもって」の出現率は、社交文書ほどではないが、社内と社外文書における格助詞性複合辞普通形の出現率の上位に見られる。

次に、【表2】にまとめた教科書、論文において格助詞性複合辞における複合辞の使用頻度上位と比較した。ビジネス文書文例集に出現する複合辞とほぼ同様だが、ビジネス文書文例集に出現している「をもって」「に際して」は、教科書、論文のいずれも上位に出現していないため、それはビジネス文書ならではの特徴であると考えられる。

4.2 ビジネス文書における格助詞性複合辞丁寧形の使用状況

庵他（2018：53）は、複合格助詞の普通形と、それに対応する丁寧形を表にまとめている。本稿は、庵他（2018：53）の内容を参考にし、松木（1989）の44種格助詞性複合辞に対応した格助詞性複合辞丁寧形を以下の【表5】に掲げた。また、本稿では、【表5】に掲げた15種の格助詞性複合辞丁寧形を対象として調査する。

【表5】調査対象とした格助詞性複合辞丁寧形の一覧表⁹

普通形	丁寧形	普通形	丁寧形
として	としまして	にとって	にとりまして
について	につきまして	をもって	をもちまして
において	におきまして	に関して	に関しまして
に対し（て）	に対しまして	にわたって	にわたりまして
によって	によりまして	にかけて（は・も）	にかけまして
を通じて	を通じまして	によると	によりますと
をめぐって	をめぐりまして	に際し（て）	に際しまして
を通して	を通しまして	-	-

9 庵ほか（2018：53）の記述による。

以下【表6】はビジネス文書における格助詞性複合辞丁寧形の述べ語数と対比値を掲げた。

【表6】ビジネス文書における格助詞性複合辞丁寧形の述べ語数と対比値

調査対象	検索総文字数	格助詞性複合辞丁寧形述べ語数	対比値
社内	109307	42	0.04
社外	330013	386	0.12
社交	170469	211	0.12
計	609789	639	0.10

【表6】に示したとおり、格助詞性複合辞丁寧形の述べ語数と総文字数の対比値は、社内文書が0.04、社外文書は0.12、社交文書は0.12、また、全体的な対比値は0.10となる。いわゆる社交文書と社外文書では、格助詞性複合辞丁寧形がよく使われている。また、社外文書と社交文書における格助詞性複合辞普通形の使用頻度は、いずれもビジネス文書における格助詞性複合辞全体の使用頻度に近い。

以下【表7】はビジネス文書に出現する格助詞性複合辞丁寧形の出現頻度と割合を掲げた。

【表7】ビジネス文書における格助詞性複合辞丁寧形の出現頻度

	格助詞性複合辞	社内		社外		社交		計	
		頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合		
1	につきまして	32	76.19	215	55.70	35	16.59	282	44.13
2	をもちまして	5	11.90	51	13.21	88	41.71	144	22.54
3	におきまして	1	2.38	49	12.69	24	11.37	74	11.58
4	に際しまして	1	2.38	25	6.48	40	18.96	66	10.33
5	によりますと	0	0.00	10	2.59	13	6.16	23	3.60
6	としまして	0	0.00	16	4.15	0	0.00	16	2.50
7	に関しまして	0	0.00	11	2.85	0	0.00	11	1.72
8	に対しまして	1	2.38	6	1.55	4	1.90	11	1.72
9	にとりまして	2	4.76	2	0.52	6	2.84	10	1.56
10	によりまして	0	0.00	1	0.26	0	0.00	1	0.16
11	を通じまして	0	0.00	0	0.00	1	0.47	1	0.16
	計	42	100.00	386	100.00	211	100.00	639	100.00
	異なり語数	6		10		8			

【表7】から、ビジネス文書に出現した格助詞性複合辞丁寧形の述べ出現頻度についてみると、社内文書は42、社外文書は386、社交文書は211、計639である。また、ビジネス文書に出現した格助詞性複合辞普通形の異なり語数について、社内文書は6語、社外文書

は10語、社交文書は8語となる。

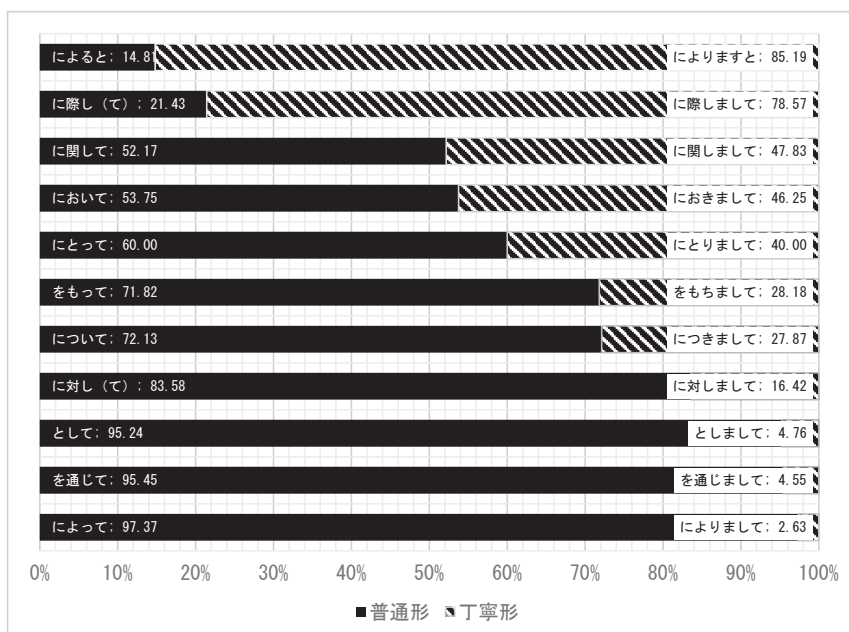
また、頻度 ≥ 10 の格助詞性複合辞普通形に注目すると、社内文書は「につきまして」>「をもちまして」>「にとりまして」、社外文書は「につきまして」>「をもちまして」>「におきまして」、社交文書は「をもちまして」>「に際しまして」>「につきまして」>「におきまして」という順となる。社交文書では、出現率が最も高い格助詞性複合辞丁寧形は、普通形と同様、「をもちまして」である。

さらに格助詞性複合辞普通形と比較すると、格助詞性複合辞普通形「として」「にわたって」「にかけて（は・も）」が出現し、特に「として」の出現数は上位に現れている。それに対応する格助詞性複合辞丁寧形「としまして」「にわたりまして」「にかけまして」は出現していない。

4.3 ビジネス文書における格助詞性複合辞普通形と丁寧形の比較

4.3.1 同一形式における丁寧形と普通形の比較

以下、ビジネス文書に出現している11種の格助詞性複合辞丁寧形に合わせ、格助詞性複合辞の普通形と丁寧形の出現率と割合を【図1】に示す。



【図1】 格助詞性複合辞における丁寧形と普通形の割合

【図1】を見ると、全体的に格助詞性複合辞普通形の出現率は丁寧形より圧倒的に高い。普通形の出現率は14.81%～97.37%、丁寧形の出現率は2.63%～85.19%の範囲で形式によっ

て異なる。その中、「に関して」と「に関しまして」の出現率は52.17%と47.83%、「において」と「におきまして」の出現率は53.75%と46.2%、普通形と丁寧形の差が僅かに見られ、出現頻度が最も近い形式である。一方、「によって」と「によりまして」の出現頻度の差が最も高い。

また、【表4】からわかるように、格助詞性複合辞「について」「をもって」「として」「によって」の出現頻度は上位に見られるが、丁寧形と普通形の割合の差について、「について」「をもって」より、「として」「によって」が非常に高い。ここからは、頻度と割合との関係を読み取ることができない。

一方、格助詞性複合辞普通形「に際し（て）」「によると」の割合は78.57%と85.19%、丁寧形「に際しまして」「によりますと」の割合は21.43%と14.81%であり、いずれも丁寧形は普通形より多く使われていることがわかった。

また、「によると」が3例、「によりますと」が23例あり、全て社交と社外にしか出現しておらず、文例集Dに多く見られる。丁寧形の出現頻度は普通系より多く出現しているという結果は、数は少ないが本多（2017）の講演のデータと一致している。

格助詞性複合辞の普通形と丁寧形は表現によって用いられる程度が異なることがある。それは使われる場面、また文の内容と関係があるのではないかと考えられるが、普通形と丁寧形の使い分けの基準や使い分けの意識はなかなか見出し難い。

本稿は、格助詞性複合辞「に際し（て）」15例と「に際しまして」66例を取り上げ、使い方と頻度との関係などについて分析する。以下【表8】に「に際し（て）」「に際しまして」の使用状況をまとめた。

【表8】格助詞性複合辞「に際し（て）」「に際しまして」の係先について

丁寧形				普通形			
	係先	頻度	出現率	係先	頻度	出現率	
授受	賜る（29 ¹⁰ ）いただく（20） くださる（3）頂戴（2） 承りました（1）	55	83.33	いただく（4）賜る（2） くださる（1）頂戴（1）	8	53.33	
他	おかけいたしました（1） 寄付する（1）申し上げず （1）あげられる（1）お かけいたしました（1）お かけいたしました（1）ご高 配にあずかり（1）接し（1） 遵守する（1）ご提示くだ さい（1）お世話になる（1）	11	16.67	ご迷惑をおかけいたしまし た（1）おかす（1）締結 いたしました（1）必要 ない（1）厳守する（1）生 じたご返金分（1）存じま す（1）	7	46.67	
		66	100.00		15 ¹¹	100.00	

【表8】を見ると、丁寧形と普通形の係先には、「賜る」「いただく」「くださる」「頂戴する」のような授受表現の「もらう」という意味の謙譲語・丁寧形が半数以上見られる。今回のデータの用例では、このような授受表現を使う際に、自分のために相手から何かしてもらったことに対するお礼・挨拶に使われる例が多くみられる。「賜る」はもともと非常に身分の高い人から何かを「もらう」という意味で使われた言葉であり、敬意が高い。以下の用例（1）（2）のように、用例（1）では「に際しまして」は「賜わる」と一緒に用いられ、前後のヒエラルキーが一致して、敬意を表されているが、用例（2）では「に際し」は「賜わり」「申し上げる」と一緒に使われている。

蒲谷（2006）は、「敬語表現は『人間関係』や『場』に配慮した表現の使い分けおよびその表現である」と述べている、また、蒲谷（2006）によると、敬語表現は、主体、場面、人間関係、場、意図、文話などに深く関わっているため、相手と場により、言葉遣いも変える必要がある。以下の用例（3）（4）の文例集Aの社交文書では敬意の高い謙譲語「いただく」が使われている。普通形「に際して」を使用すると前後の敬意のヒエラルキーが一致しなくなる結果を招くと言えるが、文全体としては敬意のレベルは下がらないためしばしば使われると考えられる。

- （1）¹²この度は、当社の来春卒業予定者募集に際しまして、早速、〇〇〇〇様以下〇名ご推薦を賜わり、誠にありがとうございました。（文例集D、社交）
- （2）かねてより、当社社員の新規募集に際し、ひとかたならぬご配慮ご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。（文例集D、社外）
- （3）さて、このほどは、カフェレストランチェーン「DANDAN カフェ」代々木店店長就任に際して、早々にご丁寧なお祝い状、ならびにすばらしいお祝い品をご惠贈いただき、誠にありがとうございます。（文例集A、社交）
- （4）さて、このたびは、弊社カフェレストラン「DANDAN カフェ」代々木店の開店に際し、ご丁寧なお祝いをいただきまして、誠にありがとうございました。（文例集A、社交）
- また、以下の用例（5）は、お知らせを表すが、社外場面、また丁寧形を使われているが、最後の「ご～ください」の敬意は低くないだろうと考える。
- （5）なお、ご来場に際しましては本状封筒を1階受付にご提示ください。（文例集C、社外）

10 （ ）に各係先の出現頻度を示す。

11 3例は「に際しての」の用例、議題名を表す2例と用件名を表す1例のため、比較内容から外した。

12 「　」で対象となる格助詞性複合辞を、「□」で敬語表現を示す。

「際しまして」は、自分より目上の人かお客様のようなソトの関係の人に対する場面で使用する。「際し（て）」は、ウチの関係、社内文書や単なるお知らせ文で使用するのが通例である。「際しまして」の用例を見る限り、相手が目上の人かどうかは確認できない。また、普通形と丁寧形の使い分けが明確ではないと考え、今回調査したビジネス文書用例集における「に際して」「に際しまして」の出現頻度を3分類して、以下の【表9】にまとめた。

【表9】5冊のビジネス文書用例集における「に際して」「に際しまして」の出現状況

ビジネス文書用例集	社外		社交		社内		計	
	丁寧形	普通形	丁寧形	普通形	丁寧形	普通形		
A	0	0	3	3	0	0	6	7.14
B	0	2	16	2	0	2	22	26.19
C	2	1	5	0	0	2	10	11.90
D	22	4	12	0	1	1	40	47.62
E	1	0	4	0	0	1	6	7.14
計	25	7	40	5	1	6	84	100.00

【表9】を見ると、用例集BとDは普通形と丁寧形の出現率が全般的に高い。また、社外と社交場面では、丁寧形の出現率は、普通形より多く見られる一方、社内場面では、普通形がより使用されていることがわかった。

また以下の用例（6）（7）は、用例集Dから抽出した社内文書である。また、自分の行動を表す内容である。会社・寮に対して社宅（寮）仕様誓約書を表す文書だが、普通形と丁寧形の両形式とも出現している。特に用例（7）では、謙譲語「いたす」を使用しているが、格助詞性複合辞は普通形を利用している。

（6）社宅（寮）の入居に際しましては、社宅仕様規定を家族一同遵守し、会社に対して一切損害を与えることがないよう、また他の入居者に対して迷惑をかけないことを、ここに誓約 いたします。（用例集D, 社内）

（7）この度、貴社の社員として入社するに際して、下記の事項を誠心誠意厳守することをここに誓約 いたします。（用例集D, 社内）

今回取り扱った5冊のビジネス文書用例集では、敬語を多用するという文体の特色が見られる。また、社外、社交場面では、格助詞性複合辞丁寧形がより多く使われる傾向があり、社内場面では、普通形がより使われる傾向が見られる。しかしながら、社交、社外の場面に普通形の出現、社内文書に丁寧形の出現も多少見られる。それは、ビジネス文書における格助詞性複合辞の許容度と言える。文の最後に丁寧度の高い敬語表現を使えば、途

中で改まり度のやや低い格助詞性複合辞を使っても、全体的としては丁寧度が低くならない。また、ビジネス現場で伝えたいことを効率的かつ確実に届けることを配慮するためだと考えられる。また、編集者の個人差にも原因があると考えられる。

4.3.2 係先の位置について

本多（2017）は、CSJ のコアデータで複合格助詞の係先の位置を調査している。係先の位置の比較を行った結果、複合格助詞において普通形と丁寧形を比較すると、丁寧形の方が普通形よりも遠くに係る傾向があり、つまり、丁寧形の複合格助詞において、丁寧形が用いられる場合には、普通形よりも広い範囲に複合格助詞の意味に係る傾向があることを明らかにしている。また、多様な内容を表すのに丁寧形がより用いられるという結論も示されている。

そこで、本稿では、ビジネス文書における格助詞性複合辞の係先の位置を調査するため、以下の【表10】に示したとおり、普通形「F-て」「F-ては／も」と丁寧形「T-て」「T-ては／も」の4グループに分け、係先の位置の比較を行った。また、本多（2017）の研究結果と比較するため、本多（2017）で取り上げた格助詞性複合辞5形式の全用例を分析対象とした。

さらに、対象となる格助詞性複合辞の係先の位置を確認するため、句構造解析ソフトKNP¹³を参考し、対象となる格助詞性複合辞と係先との距離を判断した。例えば、格助詞性複合辞の次の文節が係先の文節である場合「係先の位置」は1とする¹⁴。

【表10】係先の調査対象とした表現とグループ分け

表現	普通形		丁寧形	
	F-て	F-ては／も	T-て	T-ては／も
1	について	については／も	につきまして	につきましては／も
2	に関して	に関しては／も	に関しまして	に関しましては／も
3	に対して	に対しては／も	に対しまして	に対しましては／も
4	において	においては／も	におきまして	におきましては／も
5	として	としては／も	としまして	としましては／も

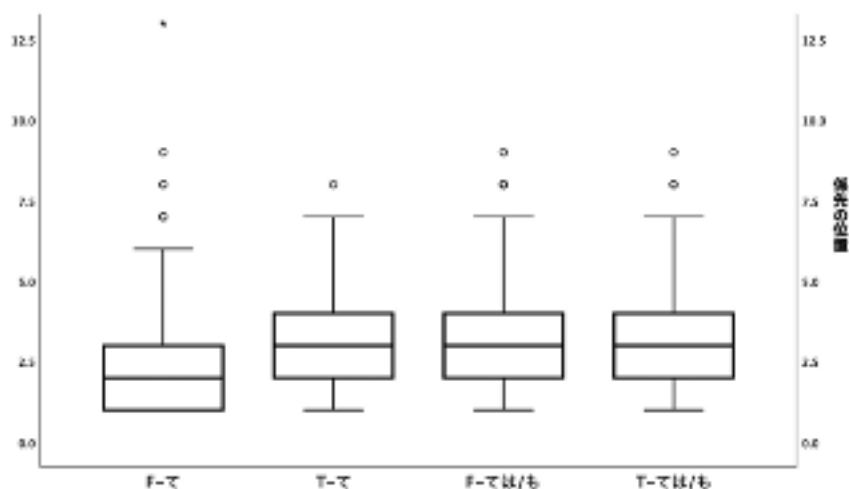
以上の20形式1189例を調査対象とし、係先の位置を【表11】にまとめた。また、各グループにおける係先の位置を【図2】で示した。

13 KNP は日本語文の構文解析、格解析、照応解析を行うシステム。文節および基本句間の係り受け関係、格関係、照応関係を出力することができる。

14 メール の件名と箇条書きで使用されている「について」は、対象外とした。

【表11】 係先分析対象データ数と位置（グループ別）

	Min.	1st Qu	Median	Mean	3rd Qu	Max
F- て (n=587)	1 (1) ¹⁵	1 (1)	2 (3)	2.37 (4.404)	3 (6)	6 (29)
T- て (n=107)	1 (1)	2 (4)	3 (6)	3.07 (7.787)	4 (11)	7 (26)
F- ては / も (n=168)	1 (1)	2 (2)	3 (4)	3.07 (7.561)	4 (10)	7 (35)
T- ては / も (n=327)	1 (1)	2 (5)	3 (9)	3.25 (10.35)	4 (14.5)	7 (33)



【図2】 各グループにおける係先の位置

本多（2017）では、平均値（mean.）を見ると、「F - て」は4.404、「T - て」は7.787、「F - ては / も」は 7.561、「T - ては / も」は 10.35となり、「F - て」と「T - て」の差が3.4、「F - ては / も」と「T - ては / も」の差が2.8となる。丁寧形の方が普通形より遠くに係る傾向があると見られる。これに対して、【表11】【図2】によれば、本稿で調査したビジネス文書文例集では、「F - て」、「T - て」、「F - ては / も」と「T - ては / も」の平均値（mean.）を見ると、「F - て」は2.37、「T - て」は3.07、「F - ては / も」は3.07、「T - ては / も」は3.25となり、「F - て」と「T - て」の差が0.7、「F - ては / も」と「T - ては / も」の差が0.18となる。普通形と丁寧形の係先の位置は、丁寧形の方が普通系より若干遠いが、本多（2017）における講演のデータほどの差はない。また、「T - て」、「F - ては / も」と「T - ては / も」の係先の位置もほぼ同じであり、いずれも「F - て」よりやや遠くに係る傾向が認められる。

15 () に、本多（2017）の調査結果を示す。

また、ビジネス文書文例集の「T - て」と「F - ては / も」の係先の位置は、平均値 (mean.) を見ると、いずれも3.07で、同じ値に見られる。本多 (2017) でも「T - て」と「F - ては / も」の係先の位置はそれぞれ7.787と7.561であり、ほぼ同様に見られる。この点については、本多 (2017) では指摘していないが、本稿は本多 (2017) と同じ傾向が見られる。

また、調査した5形式のなかで最も高い頻度を示す「について」の各グループの用例を挙げる。各グループでの係先の位置が中央値の用例を取り上げる。「 」で対象となる格助詞性複合辞を示す。「_____」は係先を示し、「/」は係先までの文節を示す。

- ① 【F - て】 貴営業所5月度販売実績表 について、下記事項を /照会しますので、回答願います。(社外場面)
- ② 【F - ては / ても】 場所の詳細 については、別添の / 案内図を /ご参照ください。(社交場面)
- ③ 【T - て】 まずは貴お申出で につきまして、承諾の / ご連絡を /差し上げます。(社外場面)
- ④ 【T - ては / ても】 このたびの、あなたの申し出に基づく退職 につきましては、下記の要領で / 手続きを /進めますので、通知します。(社内場面)

以上のことから、本多 (2017) における講演の場面のような話し言葉と違い、ビジネス文書用例集における丁寧形と普通形の係先の位置は、普通形と丁寧形の係先の位置の距離にほとんど違いがなかったということが指摘できる。

しかし、本多 (2017) では、普通形と丁寧形を比較すると係先までの位置が違うという結果が導かれており、丁寧さを加えると共に、普通形より多様な内容を表すために丁寧形がより用いられるとされ、格助詞性複合辞普通形と丁寧形の果たす機能に違いがあると指摘されている。

一方、ビジネス文書用例集の場合は、敬語がより多用されている。それは、文例集や会社で蓄積している見本を見て推敲し、相手に失礼がないように書くものであるため、ビジネス日本語として遥かに正確だと言える。

本多 (2017) における講演データによれば、フォーマルな場面で発話者が丁寧さを十分表すために意識的に格助詞性複合辞の丁寧形を使っている。また、講演の際に、説明などが長くなると、係先まで非常に大量の内容を盛り込む傾向があり、最終的にまとまらなくなる場合もしばしばある。そのため、係先が流れてしまう場合がある。これは、フォーマルな場面での話し言葉ならではの特徴である。さらに、話し言葉に丁寧形が多用されると、

意味が取りにくい文になる傾向も見られる。話し言葉に丁寧形を使用する際は、デメリットもあり、慎重に検討すべき部分もあると考えられる。

5. まとめと今後の課題

本稿では、5冊のビジネス文書文例集を調査資料として、格助詞性複合辞普通形と丁寧形に焦点を当て、ビジネス文書を社内、社外、社交の3分類に分け、それぞれの使用傾向を分析した。その結果、延べ2662語の格助詞性複合辞普通形、延べ639語の格助詞性複合辞丁寧形を抽出し、普通形と丁寧形は、表現によって用いられる程度が異なることを示した。社内文書と社外文書では、いずれも「について」「につきまして」が最も使われている。一方、社交文書では「をもって」「をもちまして」の方が多く使われている。また、全体的に普通形の頻度は丁寧形より圧倒的に高いが、「に際して」「によると」の丁寧形は普通形より多く出現していることが特徴的である。そこで、「に際して」の普通形と丁寧形の用例を分析した結果、社外文書と社交文書では、格助詞性複合辞丁寧形がより多く使われ、社内文書では、格助詞性複合辞普通形がより使われていることがわかった。しかしながら、社外文書と社交文書に普通形の使用、社内文書に丁寧形の使用も多少見られる。

次に、係先の位置の観点から、格助詞性複合辞5形式（10表現）1189例を分析対象とし、格助詞性複合辞の普通形と丁寧形の比較を行った。その結果、普通形と丁寧形の係先の位置は、丁寧形の方が普通系より若干遠いが、本多（2017）における講演のデータほどの差はない。

今後の課題としては、書き言葉のデータを拡大し、対象とする格助詞性複合辞の表現を増やし、各場面における格助詞性複合辞の特徴を考察していくことを挙げたい。

【調査資料】

岡田哲・諸星美智直監修、横須賀てるひさ・藤井里美著（2008）『そのまま使えるビジネス文書文例集』

かんき出版

志田唯史（2003）『最新決定版！CD-ROM 付きビジネス文書基本文例230』オーエス出版

田辺麻紀・長峰洋子（2003）『そのまま使えるビジネス文書 458文例 IN CD-ROM』こう書房

日本実業出版社編・石崎稔著（2007）『最新版会社文書・文例全書800文例 CD-ROM 付』日本実業出版社 5

山瀬弘（2004）『必要な文書がすぐに見つかる CD-ROM 付きビジネス文書文例集』池田書店 4

【参考資料】

庵功雄（2018）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』

蒲谷宏他（2006）『敬語表現教育の方法』大修館書店

直井みずほ（監修）（2017）『図解でわかる！ビジネス文書』秀和システム

森田良行，松木正恵（1989）『日本語表現文型：用例中心・複合辞の意味と用法』アルク

【参考文献】

安祥希（2018）「日本語アカデミック・ライティングにおける 専門分野間の言語表現・表現技法の異同
一言語学分野と文学分野を取り上げて」『筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日
本語教育論集』33巻，PP.43-60，

加藤恵梨（2019）「ビジネス文書における「さて」と「早速ですが」の使われ方について」『早稲田日本
語教育学』27巻，PP.19-23

加藤恵梨（2019）「接続詞「については」の機能と意味について」大手前大学論集19，PP.109-125

呉雨（2019）「ビジネス文書における副詞による配慮表現の一考察」『國學院大學大学院紀要：文学研究』
50巻，PP.71-90

菅谷有子他（2016）『『理工学系話し言葉コーパス』における複合辞の特徴：中級日本語教材をアカデミッ
クなコミュニケーション能力につなげるために』文教大学『言語と文化』28巻，PP.1-25

砂川有里子（1987）「複合助詞について」『日本語教育』通号62号，日本語教育学会，PP.42-55

田中寛（2010）『複合辞からみた日本語文法の研究』ひつじ研究叢書＜言語編＞第85巻 ひつじ書房
PP.44-46

丁文静（2022）「日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者の学術論文における格助詞性複合辞
の使用実態に関する一考察」第393回日本近代語研究会

中畠孝幸（2005）「複合辞「として」について - 中国語との対照 -」「論理的な日本語表現を支える複合辞
形式に関する記述的総合研究」研究成果報告書，PP.153-162

服部匡（2013）「複合格助詞関連形式での丁寧形／普通形の対応関係 - コーパスに基づいた研究 -」『形式
語研究論集』和泉書院 PP.1-18

本多由美子（2017）「複合格助詞における丁寧形の機能：『日本語話し言葉コーパス』を用いた分析」『言
語資源活用ワークショップ2017発表論文集』，国立国語研究所 PP.258-267

松木正恵（1990）「複合辞の認定基準・尺度設定の試み」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』
P.27-51

諸星美智直（2021）「ビジネス日本語における複合辞テシマイマシタについて」『国学院大学日本語教育
研究』12号，PP.1-15

- 李志暎（2002）「ビジネス日本語教育を考える」『言語文化と日本語教育・増刊特集号，第二言語習得・教育の研究最前線』2002巻 pp.245-260
- 渡辺由貴（2016）「BCCWJの教科書データにおける複合辞一語教育を視野に一」『じんもんこん2016 論文集』 PP.87-94

